

被爆者の思い熱く

世界大会・広島 開会総会

核兵器禁止条約“国際署名を力に批准迫る”

4日、広島市で開かれた原水爆禁止2018年世界大会・広島の開会総会。「核兵器のない世界に向けて行動を～国内外のたたかい」と題した企画では、海外代表とともに、ヒバクシャ国際署名運動を全国で進める新日本婦人の会や茨城県厚生連労働組合（茨厚労）が次つぎに発言しました。



(写真)海外・国内の核兵器廃絶にむけた取り組みを交流する各団体の代表＝4日、広島県立総合体育館

被爆地・広島からは広島被爆者団体連絡会議(7団体)の代表が登壇。「ヒバクシャ国際署名」を力に、「日本をはじめ各国政府に条約への署名・批准を迫ろう」と呼びかけました。

被爆者7団体を代表して、広島県原爆被害者団体協議会理事長の佐久間邦彦さん、韓国原爆被害者対策特別委員会副委員長の権俊五(クオン・ジュノ)さん、広島県朝鮮人被爆者協議会理事長の金鎮湖(キム・チノ)さんが訴えました。

被爆者7団体の吉岡幸雄事務局長からのメッセージを佐久間さんが代読しました。各国で、核兵器禁止条約の発効へ向けた取り組みが進んでいると指摘。その上で、日本政府は「国民多数の願いに背を向け、核兵器保有国とともに条約に反対している」と批判しました。

広島の被爆者団体の総意として6日に、「核兵器禁止条約へ署名し、批准への努力」を安倍首相に要求すると表明し、「こうした政府の態度を変えさせ、変えない場合は政権から退ける」とのべています。

金さんは、広島は例年より猛暑だが、「私たちの、核兵器廃絶への思いのほう熱い」と訴え。朝鮮半島の非核化へ向けて大きな流れができているもとの、「一日も早く実現してほしい。そのために、署名に一人でも多く参加してほしい」。

権さんは、日米両政府は朝鮮人被爆者の数を矮小(わいしょう)化しようとしていると指摘。「被爆者は、どこにいても被爆者です。無残な核兵器をなくすために、ともに手を携えていきたい」とのべました。

舞台いっぱい横断幕を掲げて登壇した新日本婦人の会の女性たち。埼玉県浦和支部の森田薫さんは、「被爆者や戦争体験者の証言を聞くつどいが力になり、署名集めが進んでいます」と発言。「一人ひとりと対話することが、核兵器のない平和な世界をつくる一歩になると実感しています」